

ソマリア 難民支援へ 団結

NGOが3 医師派遣

北九州から輪広がる

飢餓と部族抗争のソマリアから国外脱出した難民を救おうと日本国内の非政府組織（NGO）4団体
が来年初め、ケニアのソマリア難民キャンプに医師三人を派遣し、本格的に援助活動を開始する。北九
州市に本拠を置く国際協力ボランティア団体「アフリカ教育基金の会」（仲村辰五郎会長）の呼びかけ
で具体化した。参加する支援団体の輪はさらに広がろうとだ。

来年初め 資金援助100万円も



ソマリアから約二十七万人が
避難。しかし、ケニア側も
干ばつによる水不足、医薬
品・医師不足などで多くの
難民が危険な状態にあると
いう。

援助の意義を語り、他の援助
団体にも協力を呼びかけて
いる。

区高須西一、二六ノ三〇、
アフリカ教育基金の会事務
局11093（741）46
16。
連絡先は、北九州市若松

きっかけは、十一月末に
静岡県御殿場市で開かれた
「全国NGOの集い」。こ
の夏、ソマリアの隣国ケニ
アにあるソマリア難民キャ
ンプを視察した基金の会
の土井高德事務局長が、そ
の惨状を訴え、共同支援を
呼びかけた。

現地での支援活動は十数
カ所の難民キャンプが点在
するケニア北東部州で行
う。「基金の会」が同州マ
ンデーラ県に近く事務所を
開き、活動拠点とする計画。
一月に取りあえず医師二人
を派遣し、その後、さらに
医師らを追加派遣する。一
千万円の資金援助も決めて
いる。

これにアジア 医師連絡
協議会（岡山市）、国境な
き奉仕団（東京都）、立正
佼成会平和基金（同）の
三団体が応じ、準備が進ん
だ。さらに二団体増える予
定。

「基金の会」は難民キャ
ンプで井戸建設などを進め
ており、土井事務局長は日
本のNGOは歴史も浅く単
独ではスタッフ、資金とも
不足。各団体の特徴を生か
し協力していけば、弱点を
カバーできると、共同支

これまでケニアにはソ